

# 1. 委員会からの付託事項

## (1) 第22回委員会の今後の進め方等の提案の議事概要(抜粋)

・第22回委員会では、「今後の進め方等の提案」について下記について委員会として合意を得た。

### ■委員会合意を得た事項

- 計画策定時に確認・共有した「宮崎海岸保全の基本方針」は変更・修正せず、今後の検討を進めていく。
- 現行モデル(計画策定時)は、現地実態を再現できていない部分もあるため、現行モデルを改良・見直しして検討を進めていく。
- 計画策定時に、南へ流出する土砂を減らす対策を検討した、対策工法は突堤が適切である、という結論になった。この議論を踏まえ、突堤工法を想定して対策工法の検討を進めていく。
- 「気候変動への対応」は本委員会で主体的に検討するのではなく、宮崎県の検討結果を踏まえ、適宜、宮崎海岸への対策検討に反映する。このため技術分科会への付託事項にも「気候変動への対応」は含まない。
- 付託事項①について、実測の地形変化を等深線変化モデルで精度よく再現することは多大な時間を要する。モデルの改良は、付託事項②「南への流出土砂を減らす対策の検討」が可能なレベル(現況汀線の再現)を想定する。
- 計画策定以降、環境のモニタリングデータも蓄積され、突堤設置による地形変化やそれに伴う生息環境の変化等も知見が増えている。この観点でも検討を進めていく。

### ■その他の意見等

- 気候変動に関連し、波浪は実測データの整理であり、予測の要素は含まれないが、近年の実測データには気候変動の影響も入っているため、気候変動の影響が多少考慮されると考えられる。

## ○技術分科会への付託事項

以下に示す「対策の検討」を、技術分科会へ付託する。

### 《対策の検討》

①対策の検討に用いる等深線変化モデルの検討

②南への流出土砂を減らす対策の検討

※自然環境及び利用等に関する事項の評価は、委員会及び市民談義所等の意見を踏まえて、整理を行う。

※気候変動の検討は、付託事項に含めない。  
宮崎県の検討結果を踏まえ、対応を検討する。